

横浜市小学校社会科研究会

3学年部会

研修会記録

第 4 号

令和5年 10月4日

横浜市小学校教育研究会

会長 濱田 哲也

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 権正 倫範

【提案日時】

9月 6日 (水)

提案 北沢 宏 先生 (間門小)

【会 場】

平沼小学校

司会 谷川 知栄子 先生 (日枝小)

記録 小松 広紀 先生 (いずみ野小)

1 提案内容 単元名

単元名「市の様子と移り変わり ～埋め立てられた海と人々の思い～」

2 提案者より

○研究会主題について

視点①子どもが問いや見通しをもち、主体的に学ぶ単元づくり

子どもたちの身近な材からスタートする

- ・これまで「現在のこと」を学習してきた子どもたちにとって、「昔のこと」は遠い
→導入で身近な昔の道具や生活から学習する(八聖殿)
- ・単元の構成は本牧のまちから横浜市全体へと視点が広がるようにする。

既習内容を生かした単元づくり

- ・身近な地域の学習では、学区の南北で土地利用の様子が異なることが分かった。市の様子の学習では、交通と土地利用を関連付けて考えた。このような既習内容を生かし、交通・土地利用・人口の移り変わりの3つの視点を中心に横浜市の移り変わりを考えられるようにする。

視点②個を生かし、協働的に学びを深めるための手だて

様々な視点で材を考える

- ・根岸湾埋め立て事業を行政と住民の2つの視点で考えていきたい。
- ・間門のまちには海水浴場があったり、海苔養殖をする漁師がいたりしたことや横浜市の利用の変化によって、行政の人々が海を埋め立てて工場を作ったことを知る。
- ・調べる時間を確保し、自分の考えをもてる工夫をする。

「どうして」を深める資料の提示のタイミング

- ・埋め立て事業における住民の視点を提示し、子どもたちが「どうして」と思うようにしたい。

3 協議会

視点①子どもが問いや見通しをもち、主体的に学ぶ単元づくり

- ・児童の実態を考慮して、分かりやすさを求める工夫をすべき。
- ・身近な地域と横浜市全体を交互に考える単元だと、関連付けが難しい部分がある。

視点②協働的に学びを深めるための手だて

- ・昔と現在の写真を比較することは、イメージがしやすく分かりやすい支援になる。
- ・交通に関しては、根岸線やバス、高速道路など、様々な材があるが、手広くやると難しくなる。
- ・間門小の水族館や本牧市民プールなど、根岸湾とのつながりがある施設を登場させることで、地域

の人たちの思いに迫ることができるのではないか。一方で、こちらも手広くやりすぎるとまとまらなくなってしまう。

<学年担当校長先生より>

○日枝小学校 加藤 智敏 校長先生

- ・八聖殿は、海の歴史とも関連しているので、教材研究をする際に、八聖殿の館長さんに話を聞いてみるのもよい。子どもと出合わせることも考えてもよい。
- ・もっと子どもの思考に沿った単元構想にしてはどうだろうか。子ども達は単元を見通す学習問題が成立し、昔の「人口」「土地利用」「交通」について調べたいと思うのかは考えた方がよい。子ども達は海水浴場や海苔の養殖などがあったことを知ったとき、「昔の方がよかったのでは」と考え、学習問題がたてられていくのではないか。そこから、行政と住民の考えを比較してみるのもよい。
- ・交通・土地利用・人口の3つの視点に関しては、子ども達の思考や実態に合わせて軽重をつけてもよい。
- ・身近な人の中に漁師という児童がいるのであれば、そこを糸口にしてみるのもよい。

文責 北沢 宏 (間門小学校)